

『大学の教育力』

室蘭工業大学学長 佐藤 一彦 (さとう・かずひこ)
(北海道生産性本部顧問、室蘭地区支部副支部長)



略歴:1942年生。工学博士。室蘭工業大学大学院修了後、北海道大学工学部助手、講師、室蘭工業大学工学部助教授、1984年に同大教授。その後、技術部長、学生部長、副学長・工学部情報工学科長の要職を歴任され、2008年に定年退職(同大名誉教授)。2009年4月に国立大学法人室蘭工業大学学長に就任。

大学の教育力が問われて久しい。中央教育審議会もこれを受けて平成20年12月に審議結果を「学士課程教育の構築に向けて」としてまとめ、国と大学に改革の具体的方策を提言している。いま大学に求められているのは大学卒業者に相応の能力(答申ではこれを「学士力」とよんで参考指針を示している)を身につけさせることであり、大学の教育力の向上である。

大学の教育力は教育目標の達成に向け結集した教員の集団的・組織的能力に帰着する。前提は一人ひとりの教員が専門業績に加え、教育への熱意を持続することである。浅い教育経験はFD(教員の教授能力開発)とOJTによって償われる。若い教員が中堅の教員や練達の教授に伍して、学生から高い評価を得るに至る事例には事欠かない。大学がもつダイナミズムである。

しかし大学の教育力は教員個々の個性や力量、人気授業に任せればよいという時代は終わった。いま求められているのは、教育目標の設定、それを実現するための教育課程の編成、そして入学者受入れの方針を教員が集団的に作り上げ、学期ごとに実施状況を把握し、必要な修正や改善を施すことができるシステムを構築することである。これまでのFDが教員個人の能力開発に重点が置かれてきたのに対し、当面するFDは教員の集団的・組織的能力の向上に重心が移ってきている。大学の教育力の向上を図るにはこの課題に本腰を入れて取り組む必要がある。

さらに重要なことは、教員個人の能力開発や教員の集団的・組織的能力の向上を計画し、主導するリーダーを育てることである。この任に当たる教員は学部では学科長、大学院では専攻長であり、教育・研究ともに十分な経験と業績を積んだ教授である。しかし教育・研究上の経験や業績は、学科や専攻の教育力の向上を主導するうえで、必要条件とはいえ、十分条件とはいえない。学科や専攻を構成する個々の教員の教育に関わる業績や能力を的確に評価し、必要な指導や助言を行うことはそれほど易しくはない。さらに学生が学習成果を達成するうえで困難な授業科目や授業方法、教材などがあれば、担当者と協議し改善を図り、学生から学習環境の不備や学習支援の不足の声が上がるようであれば、その実態を調べ予算と支援要員を充当することもマネジメント能力として欠かせない。大学の教育力の向上にはこれらの職務を遂行する中間管理職の養成が急務となっている。

そして最後は学長のリーダーシップである。学部や大学院全体を横断する長期的な教育目標の設定、実現にむけた中期計画と年度計画の策定、必要な人員の配置と予算の措置、設備の実装を行うことは大学におけるガバナンスの中心的課題であり、大学の教育力の保証でもある。